

合併地区市民意識調査結果報告書

【概要版】

平成18年12月

高 松 市

目 次

調査の概要

1	調査の目的.....	1
2	調査の対象.....	1
3	調査の実施期間.....	1
4	配布・回収の方法.....	1
5	配布・回収票数、回収率.....	1

調査の結果

1	市民意識調査.....	2
1・1	回答者の属性	2
1・1・1	性別	2
1・1・2	年齢階層	2
1・1・3	家族構成	3
1・1・4	居住年数	3
1・1・5	職業	4
1・1・6	居住地区	5
1・2	設問別回答結果	6
1・2・1	市政への関心について	6
1・2・2	住み良さについて	8
1・2・3	定住希望について	14
1・2・4	施設の利用について	16
1・2・5	高松市が取り組む施策、事業に対する要望について	19
1・2・6	時代の潮流の変化への対応について	26
1・2・7	財政健全化への対応について	30
1・2・8	環境問題への対応について	33
1・2・9	少子・高齢社会への対応について	36
1・2・10	都市と産業の活力について	39
1・2・11	まちづくりへの参加について	42
1・2・12	地方分権時代の高松市の役割について	45
1・2・13	地域区分について	48

調査の概要

1 調査の目的

平成20年度を初年度とする「新しい高松市総合計画」の計画素案作成に、合併地区市民の意見を反映させるために、合併地区市民意識調査を実施しました。

2 調査の対象

合併地区ごとに住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の合併地区市民

塩江地区	320人
牟礼地区	1,480人
庵治地区	550人
香川地区	2,000人
香南地区	650人
国分寺地区	2,000人
合 計	7,000人

3 調査の実施期間

配布：平成18年7月28日（金）

回収：平成18年8月1日（月）～平成18年8月15日（火）

4 配布・回収の方法

配布方法：郵送による

回収方法：郵送による

5 配布・回収票数、回収率

地区別の配布・回収数、回収率は、下記のとおりであり、全体で35.5%の回収率となりました。

地 区 名	配布数 (A)	回収数 (B)	回収率 (B / A)
塩 江 地 区	320	118	36.9%
牟 礼 地 区	1,480	600	40.5%
庵 治 地 区	550	219	39.8%
香 川 地 区	2,000	674	33.7%
香 南 地 区	650	225	34.6%
国 分 寺 地 区	2,000	651	32.6%
合 計	7,000	2,487	35.5%

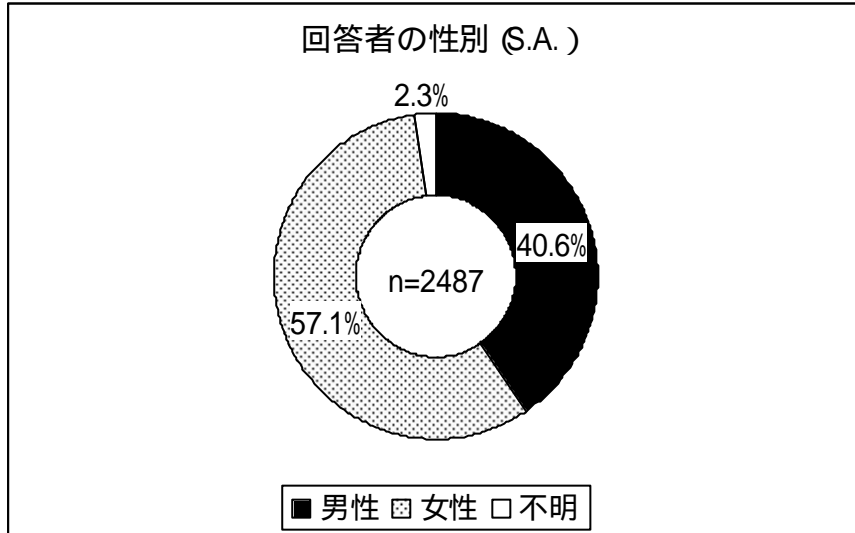
調査の結果

1 市民意識調査

1・1 回答者の属性

1・1・1 性別

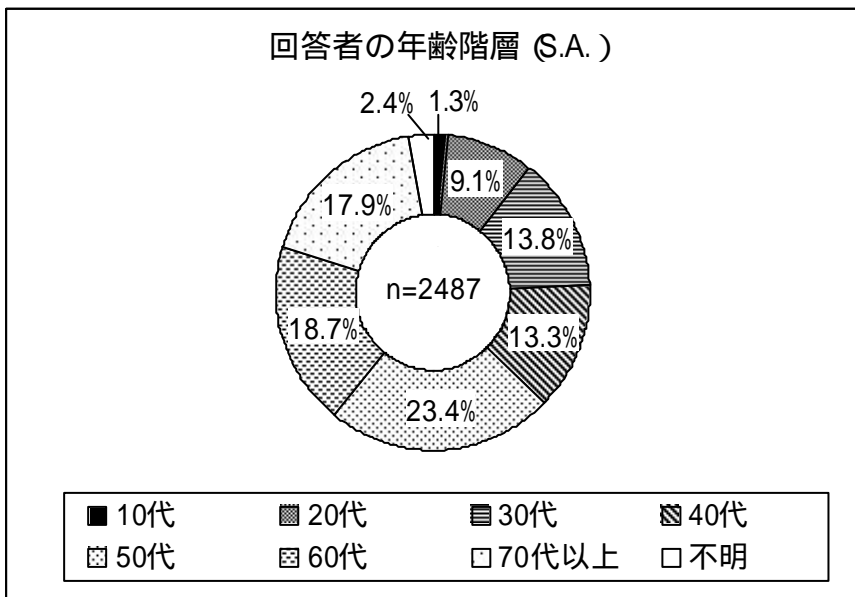
男性が40.6%、女性が57.1%と女性の方が多く、不明を除いた男女比は、男性1：女性1.4で、女性の割合が多くなっています。



(注) S.A.とは：シングルアンサーの略で、選択肢の中から1つだけ回答を求めたもの(以下同)。
nとは：有効回答票数のこと(以下同)。

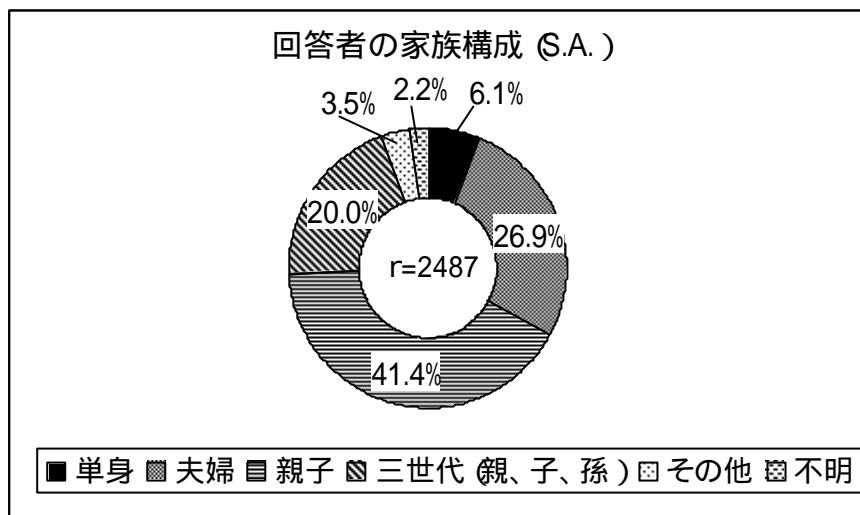
1・1・2 年齢階層

50歳代が23.4%と最も多く、以下は、60歳代、70歳代以上、30歳代、40歳代、20歳代となり、10歳代は少ないという結果になっています。



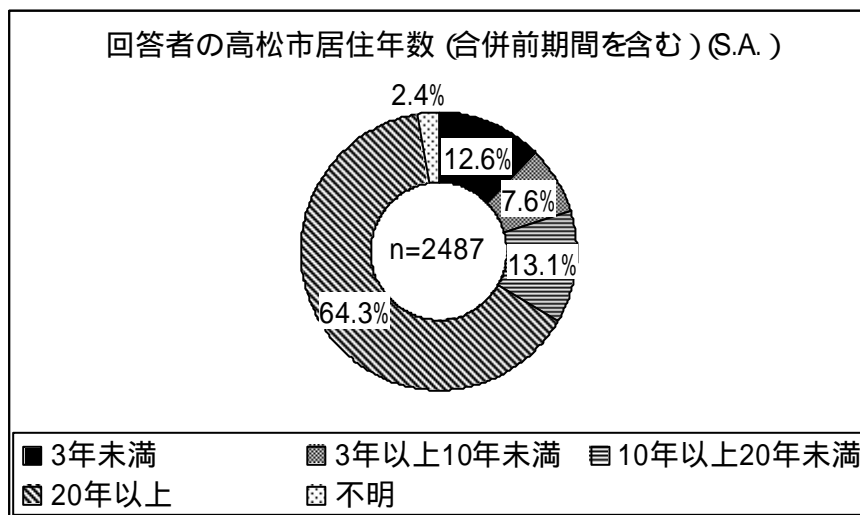
1・1・3 家族構成

「親子」が41.4%と最も多く、「夫婦」が26.9%とこれに続いています。
 「三世代(親・子・孫)」は20.0%、「単身」は6.1%でした。



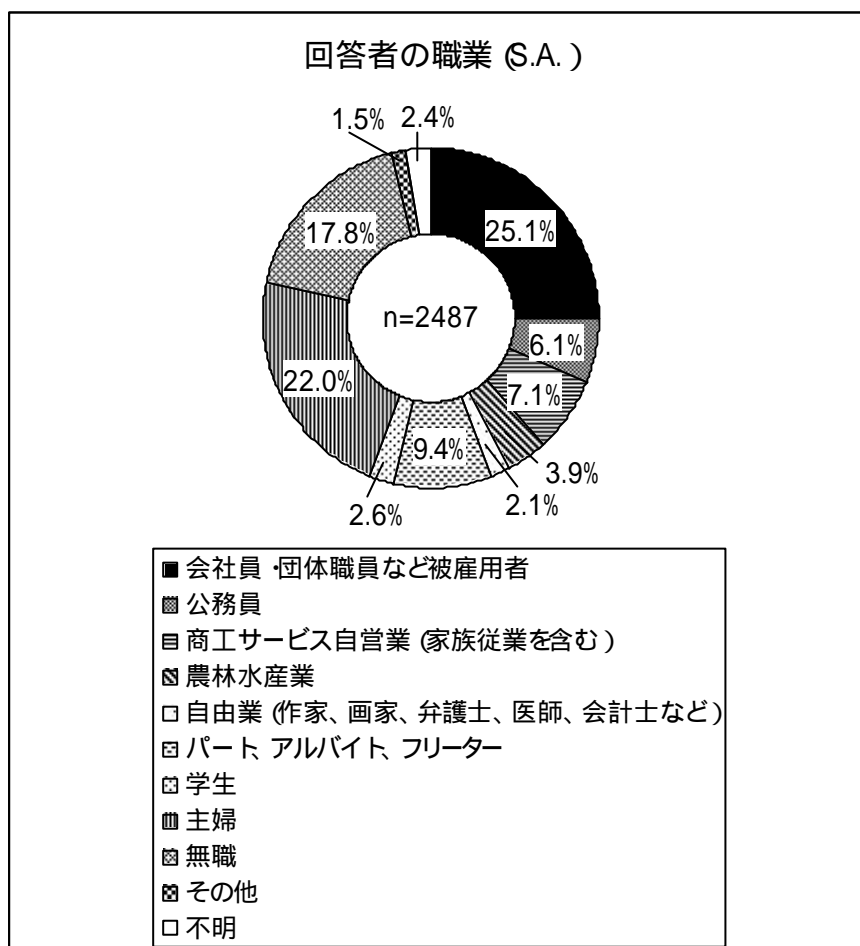
1・1・4 居住年数

「20年以上」が64.3%と圧倒的に多いという結果になっています。次いで、「10年以上20年未満」が13.1%と多く、10年以上高松市に居住(合併前の期間を含む)している回答者は全体の7割を超えています。



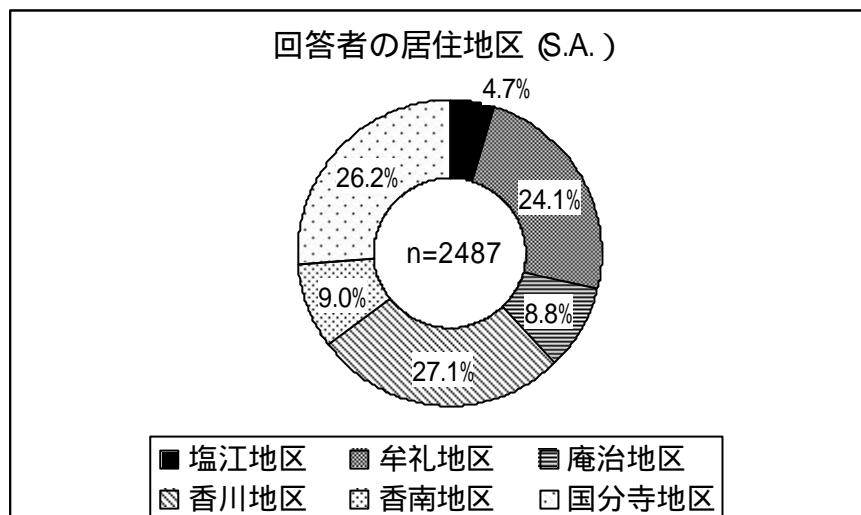
1・1・5 職業

「会社員・団体職員など被雇用者」が最も多く、全体の25.1%を占めています。「(専業)主婦」が22.0%とこれに次いで多く、「無職」も17.8%となっています。以下では、「パート、アルバイト、フリーター」、「商工サービス自営業」、「公務員」が5%を超えています。



1・1・6 居住地区

香川地区 27.1%、次いで国分寺地区 26.2%、牟礼地区 24.1%が相対的に多く、次いで香南地区 9.0%、庵治地区 8.8%、塩江地区 4.7%の順となっています。



1・2 設問別回答結果

1・2・1 市政への関心について

【質問】あなたは、高松市政に関心をお持ちですか。

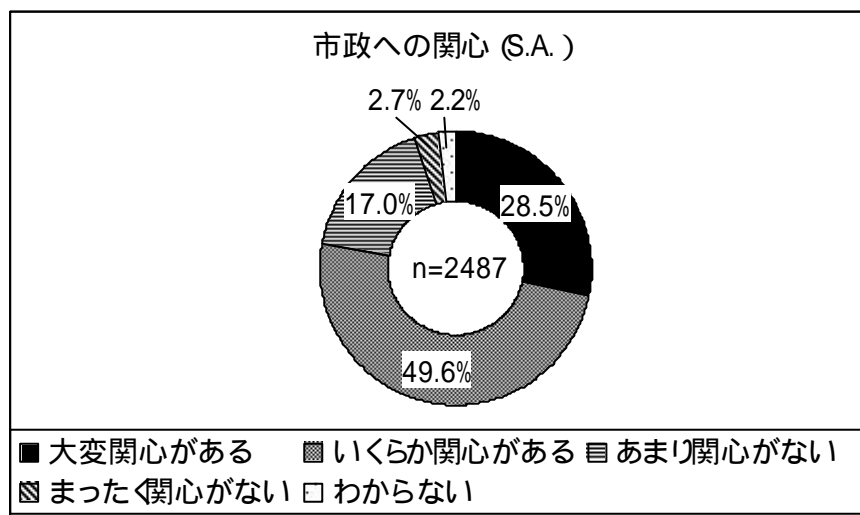
次の中から一つ選んで、その番号に 印をつけてください。

- 1 大変関心がある
- 2 いくらか関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない
- 5 わからない

(1) 単純集計結果

3 / 4 以上が市政に関心を持つ

「大変関心がある」が 28.5%、「いくらか関心がある」が 49.6%であり、両者を合わせると 78.1%と、3 / 4 以上の回答者が市政に関心を持っています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	特 徴
性 別	「大変関心がある」と「いくらか関心がある」を合わせた関心度では性別による差はほとんどありませんが、「大変関心がある」では、男性が33.9%、女性が24.6%と9.3ポイントも差があり、男性の方が関心の度合いが高いことが特徴となっています。
年齢階層別	年齢階層が高いほど関心を持つ回答者が多く、関心の度合いも高くなっていることが特徴です。反面、30歳代以下、特に10歳代、20歳代の市政への関心度は全体結果を大きく下回っています。
家族構成別	関心がある回答者の比率は、「夫婦」だけの世帯が高い以外、家族構成別の変化は小さいものですが、「大変関心がある」についてしてみると、「夫婦」世帯と「三世帯」世帯、「単身」世帯で高く、「親子」世帯では相対数が低いことが特徴です。
居住年数別	「20年以上」を筆頭に、居住年数が長いほど、市政への関心が高いという傾向が示されています。
職業別	職業によって市政への関心度はかなり異なっています。「大変関心がある」と「いくらか関心がある」を合わせた「関心がある」は、自由業が最も高く、次いで農林水産業、商工サービス自営業の順となっています。反対に「関心がある」が最も低いのは、学生で、パート・アルバイト・フリーター、会社員・団体職員など被雇用者、主婦がこれに次いでいます。
居住地区別	居住地区による大きな差はないものの、合併地区の市政への関心は高くなっています。

1・2・2 住み良さについて

【質問】 あなたは、高松市の住み良さについて、どう感じておられますか。
次のア～ヌの各項目について、1～4の中から一つ選んで、その番号に
印をつけてください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ア 自然環境が保たれている | ス 教育水準が高い |
| イ 緑が多い | セ 生涯学習の機会が豊富である |
| ウ 公害が少なく衛生的である | ソ 芸術文化活動がしやすい |
| エ 住宅事情がよい | タ スポーツ活動がしやすい |
| オ 就業の場に恵まれている | チ 医療・保健が充実している |
| カ 余暇活動・レジャーが楽しめる | ツ 福祉が充実している |
| キ 買物が便利である | テ 交通安全対策が充実している |
| ク まちのにぎわいがある | ト 災害に対して安全である |
| ケ 公共交通機関が便利である | ナ 全体として公共サービスが行き届いている |
| コ 道路が整備されている | ニ 近所づきあいがしやすい |
| サ 建物や街並みの景観が整っている | ヌ 地域の人々の交流が活発である |
| シ 子育てが安心してできる | |

- 1 そう思う
- 2 ふつう
- 3 そう思わない
- 4 わからない

(1) 単純集計結果

「緑が多い」、「道路が整備されている」が80%以上と肯定的評価が高い

「そう思う」と「ふつう」を合わせた回答を「肯定的評価」（以下同）とみると、「緑が多い」、「道路が整備されている」の81.9%を筆頭に、「自然環境が保たれている」（78.6%）、「買い物が便利である」（78.0%）、「公害が少なく衛生的である」（73.6%）、「住宅事情がよい」（71.7%）、「近所づきあいがしやすい」（71.0%）が70%を超え、「医療・保健が充実している」、「教育水準が高い」、「建物や町並みの景観が整っている」も60%を超えています。

「公共交通機関が便利である」をはじめ、「まちのにぎわいがある」、「就業の場に恵まれている」、「就業の場に恵まれている」は否定的評価が50%を超える

一方、「そう思わない」とする「否定的評価」が「肯定的評価」を上回っている項目としては、「そう思わない」が59.3%を占める「公共交通機関が便利である」をはじめ、「まちのにぎわいがある」（同 57.8%）、「就業の場に恵まれている」（同 51.3%）、「就業の場に恵まれている」（同 51.3%）があります。

また、「余暇活動・レジャーが楽しめる」、「交通安全対策が充実している」などは肯定的評価と否定的評価が拮抗しています。

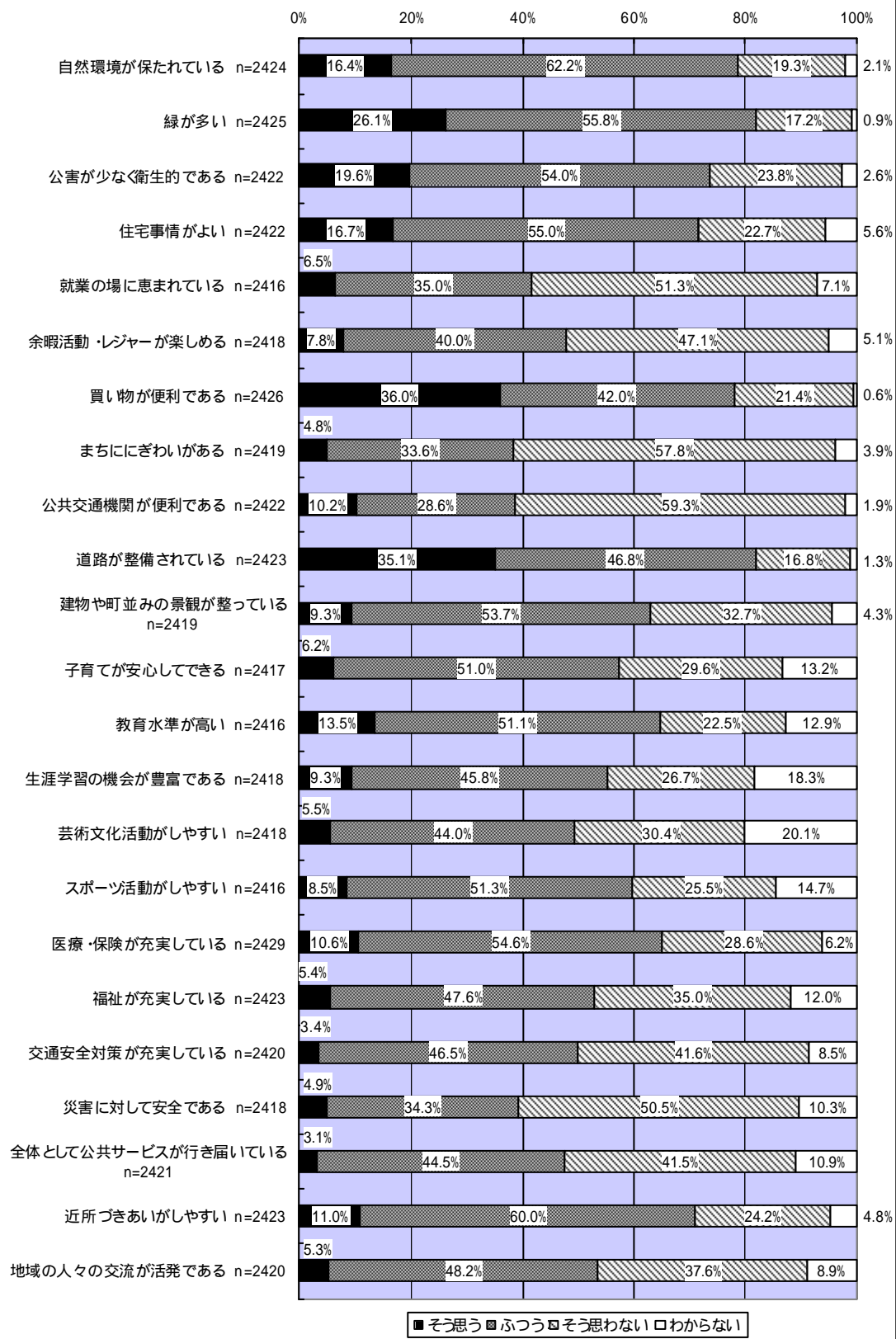
公共サービスの総合評価は、肯定的評価が約48%、否定的評価が約42%とやや拮抗

「全体として公共サービスが行き届いている」、つまり公共サービスの総合評価は、「肯定的評価」が47.6%と過半数を下回り、「そう思う」とする積極的評価も3.1%と少なく、「そう思わない」とする「否定的評価」が41.5%に達しています。

経済不況、商業、公共交通のほか、余暇、交通安全などでの不満が相対的に高い

以上のように、経済不況や中心市街地の商業の停滞や公共交通に対する不満が表現されており、また、余暇活動や交通安全面でも不満が示されるとともに、特に身近な市民生活に関わる項目において「そう思う」との積極的評価が低いことが示しているように、市民生活の質の向上に向けての課題は山積していると言えます。

住み良さの評価 (S.A.)



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	肯定的評価	否定的評価
性 別	男女とも「買い物が便利である」「道路が整備されている」「緑が多い」「自然環境が保たれている」が上位4位を構成している点では共通していますが、男性では「公害が少なく衛生的である」第5位を占めるのに対し、女性では「住宅事情がよい」となっている点に差がみられます。	男女とも「まちににぎわいがある」、「公共交通機関が便利である」、「災害に対して安全である」、「就業の場に恵まれている」、「余暇活動・レジャーが楽しめる」で上位5位が構成されています。
年齢階層別	第1位についてみると、10歳代では「スポーツ活動がしやすい」、40歳代と70歳代以上では「緑が多い」となっていますが、その他の年齢階層ではいずれも「道路が整備されている」となっています。	第1位についてみると、10歳代、70歳代以上では「就業の場に恵まれている」、20歳代では「余暇活動・レジャーが楽しめる」、60歳代では「まちににぎわいがある」となっていますが、その他の年齢階層では「公共交通機関が便利である」となっています。
居住地区別	第1位についてみると、塩江地区と庵治地区では「緑が多い」、牟礼地区では「買い物が便利である」、香川地区と国分寺地区は「道路が整備されている」、香南地区は「自然環境が保たれている」となっています。	第1位についてみると、牟礼地区では「まちににぎわいがある」、国分寺地区では「災害に対して安全である」となっていますが、そのほかの地区ではいずれも「公共交通機関が便利である」となっています。

(3) 公共サービス全体に対する評価

公共サービス全体に対する評価（設問「ナ 全体として公共サービスが行き届いている」に対する回答結果）を全体結果と性別、年齢階級別、居住年数別で比較すると、次のような特徴があります。

性別では、男性の方が否定的評価がやや高い

全体結果と比べると、否定的評価、肯定的評価ともに、男性がやや高いという結果になっています。

年齢階層別では、高齢者で肯定的評価が相対的に高い

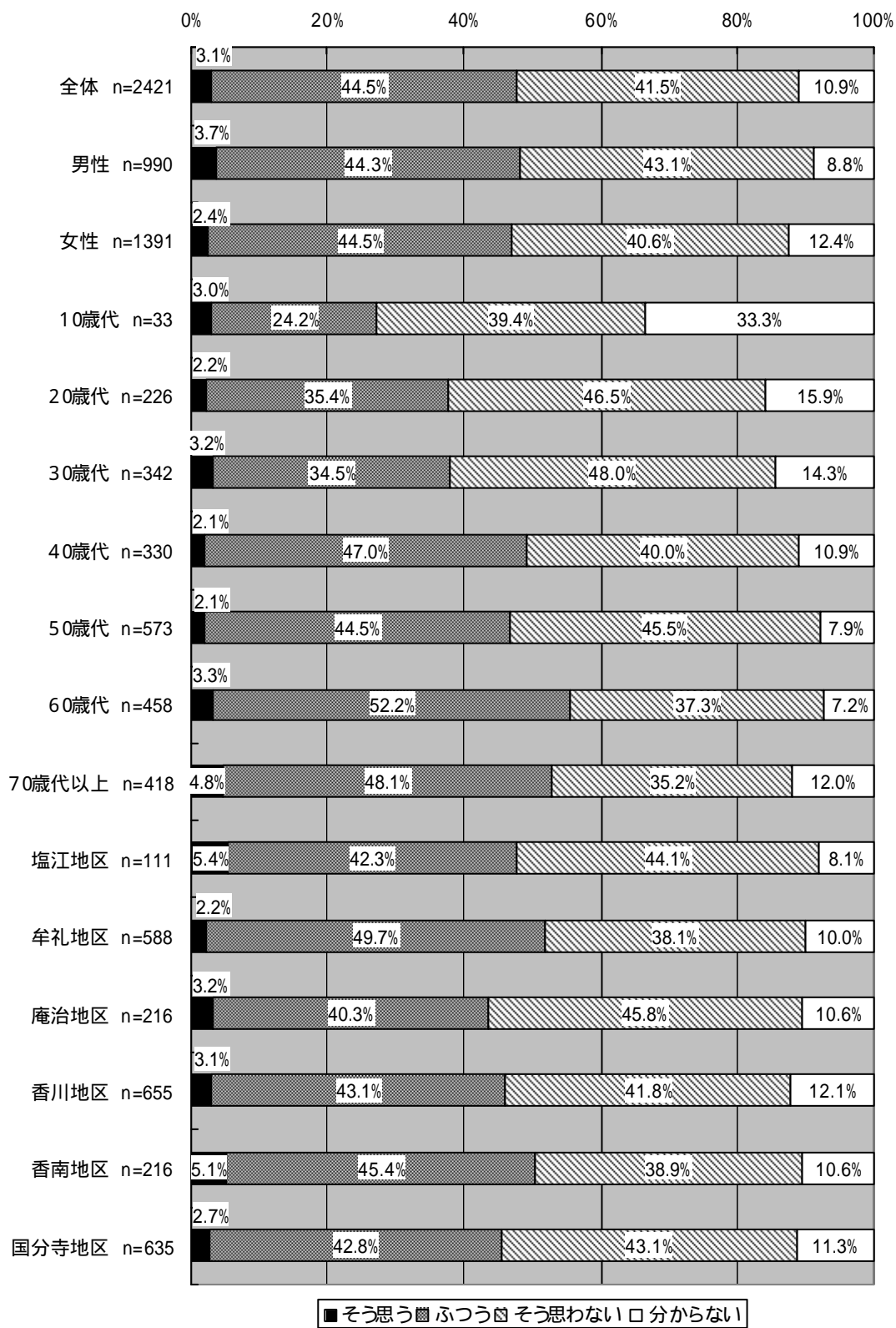
全体結果を比べると、60歳代以上の高齢者に肯定的評価が相対的に高くなっています。その他の年齢階層では、40歳代を除き、肯定的評価が全体結果を下回っており、特に30歳代では否定的な評価が全体結果に比べ6.5ポイント高くなっています。

居住地区別では、塩江地区を除き、肯定的評価は全体結果を下回る

牟礼地区、次いで香南地区の肯定的評価が相対的に高く、全体結果を2.9～4.3ポイント上回っています。

塩江地区を除くその他の地区の肯定的評価は、いずれも全体結果を下回っており、否定的評価について、全体結果と比べると、特に庵治地区では、4.3ポイント高くなっています。

公共サービス全体に対する評価 (S.A)
 - 全体結果と性別年齢・階層別・居住地区別比較 -



1・2・3 定住希望について

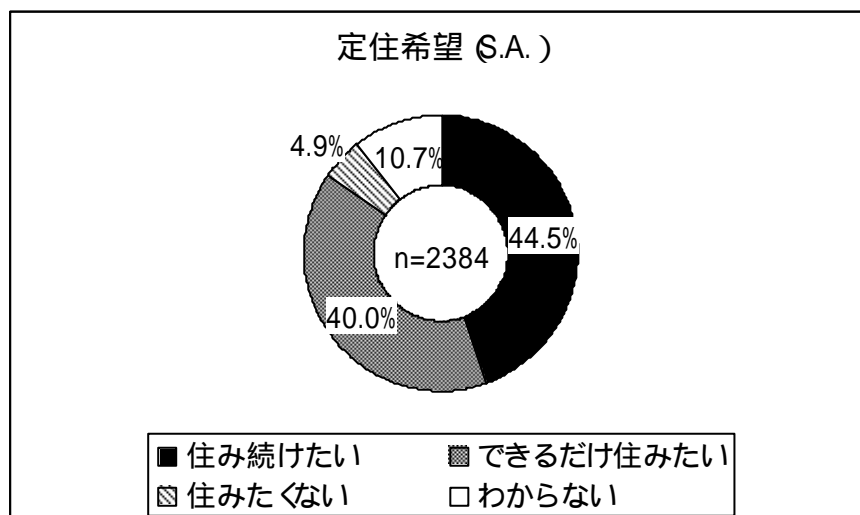
【質問】 あなたは、今後とも高松市に住みたいと思いますか。
次の中から一つ選んで、その番号に 印をつけてください。

- 1 住み続けたい
- 2 できるだけ住みたい
- 3 住みたくない(できれば高松市以外へ移りたい 具体的に移りたい地域があればご記入ください _____)
- 4 わからない

(1) 単純集計結果

定住志向は約 85% を占める

「住み続けたい」が 44.5% と約半数近くを占め、「できるだけ住みたい」(40.0%) を合わせると、両者を合わせた定住志向(以下同)は 84.5% に達しています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	「住み続けたい」の回答率は男性、「できるだけ住みたい」の回答率は女性の方がやや高く、定住志向は女性が84.2%、男性が85.1%となっています。
年齢階層別	20歳代をボトム(底)にして、年齢階層が高いほど、定住志向が強いという結果を示しています。特に、60歳代と70歳代以上では、定住志向が90%を超え、また、「住み続けたい」とする積極的住志向が「できるだけ住みたい」を大きく上回っています。 40歳代、50歳代でも定住志向は80%を超えています。50歳代では「住み続けたい」が「できるだけ住みたい」を上回っていますが、40歳代では両者は拮抗し、30歳代では「できるだけ住みたい」が「住み続けたい」を15ポイント以上も上回っており、同様の傾向を示す20歳代とともに定住志向はやや弱いものがあります。
家族構成別	定住志向は、「三世帯」世帯で87.6%と、「その他」を除くと最も高く、次いで、「夫婦」世帯(87.5%)、「単身」世帯(82.4%)、「親子」世帯(81.9%)となっていますが、「住み続けたい」という強い定住志向は、「三世帯」、「夫婦」世帯で特に高くなっています。
居住年数別	居住年数が高いほど定住志向が強いことが特徴です。特に、「20年以上」では「住み続けたい」が48.9%を占め、定住志向は89.0%に達しています。また、「10年以上20年未満」では80.4%、「3年以上10年未満」では73.6%の定住志向が示されていますが、いずれも「できるだけ住みたい」が「住み続けたい」を上回っており、「20年以上」と比べると、その志向は幾分弱いものになっています。逆に「3年未満」については、定住志向が「3年以上10年未満」と拮抗しているものの、「住み続けたい」(39.4%)が「できるだけ住みたい」(34.8%)を4.6ポイント上回っていることが示されています。
職業別	定住志向が最も強いのは、「農林水産業」の97.8%で、「無職」(90.1%)、「商工サービス自営業」(85.9%)がこれに次いでおり、いずれも「住み続けたい」のウエートが高いことも共通しています。 一方、「学生」については、「住み続けたい」のウエートが極端に低く定住志向が低いことが特徴です。
居住地区別	「住み続けたい」と「できるだけ住みたい」を合わせた定住志向でみると、各居住地区別に大きな差はありませんが、「住み続けたい」とする積極的な定住志向は、塩江地区、香南地区で強く、牟礼地区、庵治地区、香川地区、国分寺地区で相対的に弱いという特徴があります。

1・2・4 施設の利用について

【質問】 あなたは、現在の場所で生活するうえで、次のどの施設に不便や不満をお感じですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

- | | | | |
|----|------------------------|----|------------------|
| 1 | 歩道橋、横断歩道 | 17 | 美術館 |
| 2 | 信号機 | 18 | 遊歩道、自転車道路 |
| 3 | 防犯灯、街路灯 | 19 | 屋外スポーツ施設 |
| 4 | 病院、診療所 | 20 | 屋内スポーツ施設 |
| 5 | 保健所 | 21 | レジャー・レクリエーション施設 |
| 6 | 福祉施設（介護保険施設・身体障害者施設など） | 22 | 劇場、ホールなど文化施設 |
| 7 | 公衆便所 | 23 | 会議室、集会所 |
| 8 | 消防署、消防出張所 | 24 | 市役所、支所、出張所 |
| 9 | 保育所（保育園） | 25 | 子供の遊び場 |
| 10 | 幼稚園 | 26 | 公園や広場 |
| 11 | 小学校 | 27 | 商業施設（デパート、商店等） |
| 12 | 中学校 | 28 | 鉄道（電車含む）、バス |
| 13 | 高等学校 | 29 | 道路 |
| 14 | 大学 | 30 | 駐車場、駐輪場 |
| 15 | 公民館 | 31 | 銀行などの金融機関 |
| 16 | 図書館（公民館内の図書館、移動図書館を含む） | 32 | 警察署、駐在所 |
| | | 33 | 災害時の避難場所（公園・学校等） |
| | | 34 | その他（ ） |

(1) 単純集計結果

「鉄道（電車含む）、バス」がもっとも高く、「防犯灯、街路灯」がこれに次ぐ

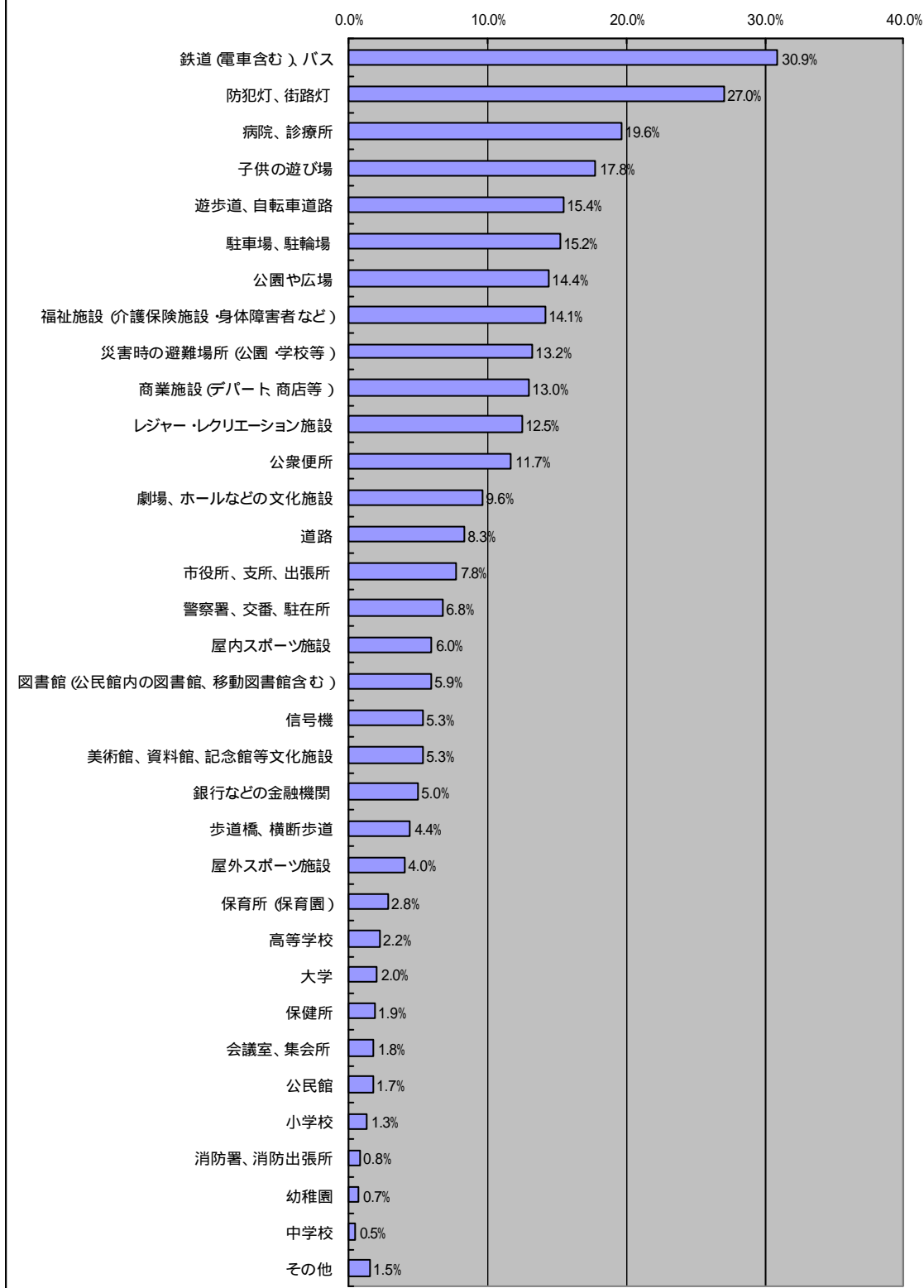
不便や不満を感じる施設としては、「鉄道（電車含む）、バス」の回答率が30.9%と最も高く、次いで、「防犯灯、街路灯」（27.0%）への不満が20%を超えています。

また「病院、診療所」（19.6%）、「子供の遊び場」（17.8%）、「遊歩道、自転車道路」（15.4%）、「駐車場、駐輪場」（15.2%）も15%を超えており、このほか「公園や広場」、「福祉施設」、「災害時の避難場所」、「商業施設」、「レジャー、レクリエーション施設」、「公衆便所」も10%を超える回答率になっています。

総じて、公共交通、安全・安心関連施設、日常生活に密着した身近な施設、医療・福祉施設などへの不便・不満の声が高いと言えます。

不便や不満を感じる施設 (M.A.)

n=2360



(注) M.A.とは：マルチアンサーの略で、選択肢の中から複数の回答を求めたもの（以下同）。

(2) クロス集計結果

区 分	内 容
性 別	<p>男女とも「鉄道（電車含む）、バス」、「防犯灯、街路灯」、「病院、診療所」、が第1～3位を占める点は共通ですが、全体結果と比較すると、女性の方が不満は強くなっています。</p> <p>第4位以下は、男性では「福祉施設」、「遊歩道、自転車道路」、女性では「子供の遊び場」、「商業施設」の順となっています。</p>
年齢階層別	<p>最も不便・不満を感じる施設は、10歳代では「防犯灯、街路灯」となっていますが、他はすべて「鉄道（電車含む）、バス」となっています。</p>
居住地区別	<p>牟礼地区と国分寺地区では「防犯灯、街路灯」が第1位となっていますが、他の地区は、いずれも「鉄道（電車含む）、バス」が第1位となっています。第2位は、牟礼地区で「鉄道（電車含む）、バス」、香川地区で「防犯灯、街路灯」となっている以外は、いずれの地区も「病院、診療所」となっています。</p>

1・2・5 高松市が取り組む施策、事業に対する要望について

【質問】高松市が取り組んでいる施策、事業に対する、あなたの要望についてお答えください。

次のア、イの項目ごとに五つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

ア 今すぐにでも改善または推進しなければならないもの

イ 長期的（10年以内ぐらい）に力を入れなければならないもの

- | | |
|--------------------|--|
| 1 保健・医療対策 | 25 公園・緑地の整備 |
| 2 スポーツ・レクリエーションの振興 | 26 河川・水路の整備 |
| 3 自治会などの地域活動の促進 | 27 下水道の整備 |
| 4 ボランティアなどの地域福祉の充実 | 28 公営住宅の整備 |
| 5 保育所（保育園）など児童福祉対策 | 29 ごみ・し尿処理などの環境衛生対策 |
| 6 高齢者福祉対策 | 30 商業の振興 |
| 7 障害者福祉対策 | 31 工業の振興 |
| 8 国民健康保険制度など社会保障制度 | 32 農林水産業の振興 |
| 9 介護保険制度の充実 | 33 工芸・特産品の振興 |
| 10 消費生活の安定 | 34 流通機能の整備 |
| 11 人権問題への対応 | 35 観光の振興 |
| 12 学校教育の推進 | 36 コンベンション*の誘致促進 |
| 13 大学などの高等教育の推進 | 37 勤労者福祉の充実 |
| 14 生涯学習の推進 | 38 都市内幹線道路などの整備 |
| 15 青少年の健全育成 | 39 港湾・海上交通網の整備 |
| 16 男女共同参画社会の推進 | 40 空港・航空網の整備 |
| 17 芸術・文化の振興 | 41 市街地の再開発 |
| 18 国際交流の推進 | 42 情報通信システムの充実整備
(インターネット等を利用した住民サービス等) |
| 19 環境保全の推進 | 43 安全で安定した水の確保 |
| 20 交通安全対策 | 44 公共交通の利便性の推進 |
| 21 消防・防災対策 | 45 市政への市民参加の推進 |
| 22 防犯対策 | 46 身近な住民窓口サービス |
| 23 都市景観の向上 | 47 その他() |
| 24 生活道路の整備 | |

* コンベンション：学術、経済、文化をはじめとする各種団体や企業が国内外から参加者を募り開催する会議や大会など

[1] 今すぐにも改善または推進しなければならないもの

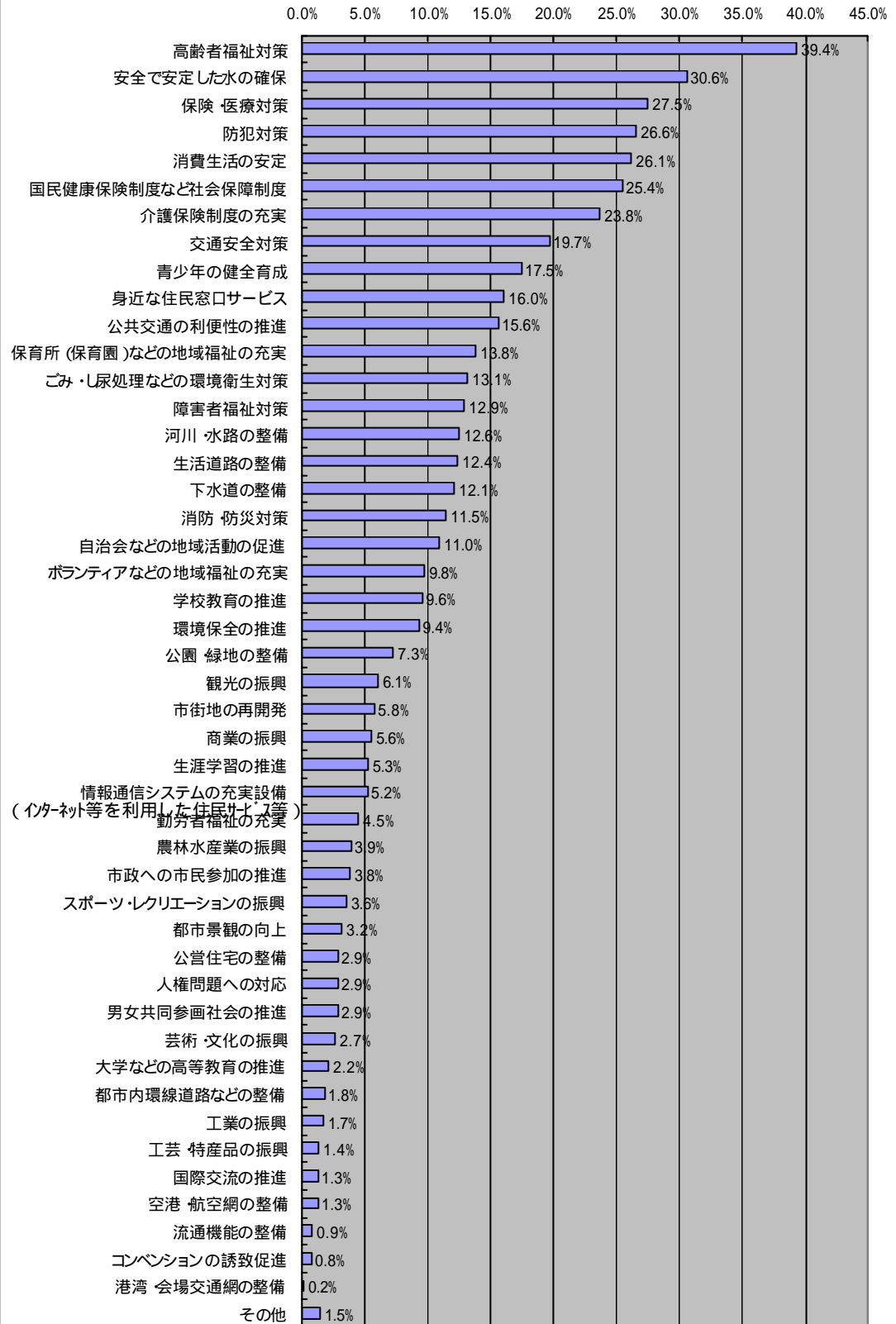
(1) 単純集計結果

「高齢者福祉対策」、次いで「安全で安定した水の確保」の順

「高齢者福祉対策」(39.4%)が第1位、次いで「安全で安定した水の確保」(30.6%)が第2位を占め、「保健・医療対策」(27.5%)、「防犯対策」(26.6%)、「消費生活の安定」(26.1%)、「国民健康保険制度など社会保障制度」(25.4%)、「介護保険制度の充実」(23.8%)がこれに続いています。このほか、「交通安全対策」(19.7%)、「青少年の健全育成」(17.5%)、「身近な住民の窓口サービス」(16.0%)も15%以上の回答率を得ており、相対的に要望が強いと言えますがとりわけ、高齢化社会を見据えた「保健・福祉・医療」の充実が求められています。

高松市が取り組む施策、事業に対する要望について (M.A.)
 - 今すぐにも改善または推進しなければならないもの -

n=2307



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	<p>全体結果で上位10位を占めた施策についてみると、「国民健康保険制度など社会保障制度」、「介護保険制度の充実」、「青少年の健全育成」の3つの施策では性別の差が小さいものの、他の7つの施策では性別の回答率で差がみられます。</p> <p>「高齢者福祉対策」、「交通安全対策」の施策では男性の回答率が女性の回答率を3.2～4.3ポイント上回っているのに対し、生活への密着度の高い「消費生活の安定」、「身近な住民の窓口サービス」の施策では、女性の回答率が男性の回答率を4.7～4.8ポイント程度上回っています。</p>
年齢階層別	<p>第1位についてみると、20歳代、30歳代では「防犯対策」、40歳代では、「安全で安心した水の確保」となっていますが、他の年齢階層ではいずれも「高齢者福祉対策」となっています。</p> <p>このほか、全体結果と比べて回答率が5ポイント以上高かった施策としては、20歳代～30歳代における「防犯対策」、「交通安全対策」、50歳代～60歳代における「国民健康保険制度など社会保障制度」、60歳代における「安全で安定した水の確保」なっています。</p>
居住地区別	<p>全体平均に比べて5ポイント以上高く、改善・推進のニーズが特に強い施策を地区別にみると、塩江地区では「消費生活の安定」、「青少年の健全育成」、「身近な住民窓口サービス」、庵治地区では「高齢者福祉対策」、「介護保険制度の充実」、香川地区では「安全で安定した水の確保」、香南地区では「防犯対策」となっています。</p>

[2] 長期的に力を入れなければならないもの

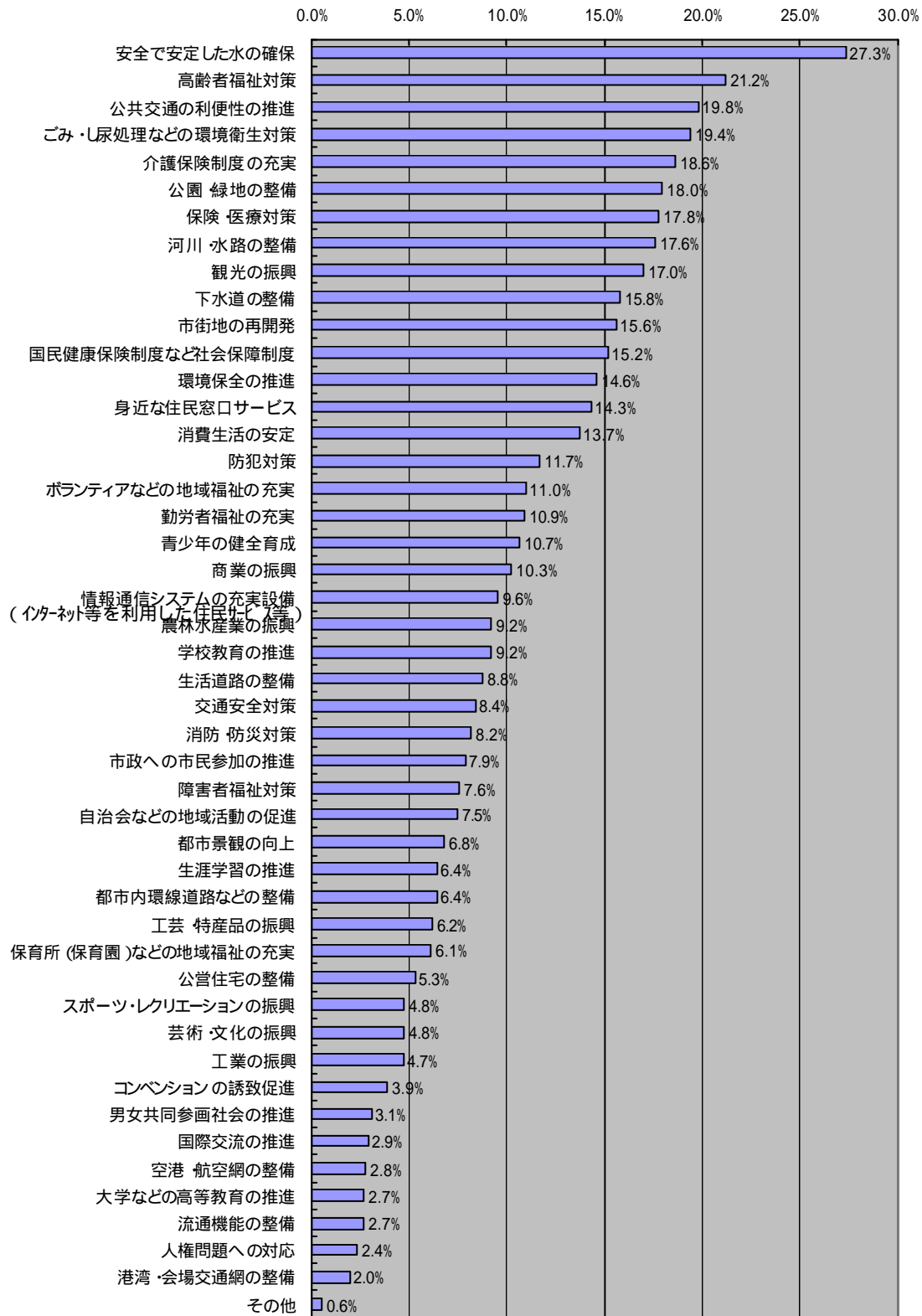
(1) 単純集計結果

「安全で安定した水の確保」など日常生活関連施策が上位にランク

「安全で安定した水の確保」が27.3%と第1位を占めています。これに次ぐのは、「高齢者福祉対策」(21.2%)、「公共交通の利便性の推進」(19.8%)、「ごみ・し尿処理などの環境衛生対策」(19.4%)、「介護保険制度の充実」(18.6%)、「公園・緑地の整備」(18.0%)、「保険・医療対策」(17.8%)、「河川・水路の整備」(17.6%)、「観光の振興」(17.0%)、「下水道の整備」(15.8%)、「市街地の再開発」(15.6%)、「国民健康保険制度などの社会保障制度」(15.2%)で、以下、「環境保全の推進」(14.6%)、「身近な住民窓口サービス」(14.3%)、「消費生活の安定」(13.7%)、「防犯対策」(11.7%)、「ボランティアなどの地域福祉の充実」(11.0%)、「勤労者福祉の充実」(10.9%)、「青少年の健全育成」(10.7%)、「商業の振興」(10.3%)も10%を超える回答率になっており、特に、日常生活関連施策の充実が求められます。

高松市が取り組む施策、事業に対する要望について (M.A.)
 - 長期的に力を入れなければならないもの -

n=2294



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	「安全で安定した水の確保」、「高齢者福祉対策」、「公共交通の利便性の推進」、「ごみ・し尿処理などの環境衛生対策」、「公園・緑地の整備」、「保健・医療対策」、「河川・水路の整備」、「下水道の整備」の8施策では男女性別による差は小さいものの、「介護保険制度の充実」、「観光の振興」の2施策では、女性の回答率が男性の回答率を3.0～4.3ポイント程度上回っています。
年齢階層別	第1位をみると、10歳代では「観光の振興」、20歳代、30歳代では「高齢者福祉対策」、40歳代以上はいずれも「安全で安定した水の確保」となっています。 年齢階層別で全体結果を5ポイント以上上回っている施策をみると、10歳代では「観光の振興」、20歳代では「公園・緑地の整備」、30歳代では「高齢者福祉対策」、「公園・緑地の整備」、40歳代では「保健・医療対策」、70歳代以上では「安全で安定した水の確保」、「河川・水路の整備」となっています。
居住地区別	地区ごとのニーズの強弱が示されています。特に、塩江地区、香南地区で特徴的な回答結果となっています。また、香川地区、国分寺地区では、全体平均とほぼ重なる回答結果が示されています。 地区別の回答率が、全体平均に比べ3ポイント以上高く、ニーズの高い施策をみると、塩江地区では「介護保険制度の充実」、「保健・医療対策」、牟礼地区では「公園・緑地の整備」、「観光の振興」、「安全で安定した水の確保」、庵治地区では「安全で安定した水の確保」、「ごみ・し尿処理などの環境衛生対策」、「観光の振興」、「下水道の整備」、香川地区では「下水道の整備」、香南地区では「公共交通の利便性の推進」、「下水道の整備」、国分寺地区では「ごみ・し尿処理などの環境衛生対策」となっています。

1・2・6 時代の潮流の変化への対応について

【質問】 私たちを取り巻く社会経済環境や市民意識は、大きく変化しつつあります。あなたは、今後、高松市はどのような傾向を重視して都市づくりを進めていけばよいとお考えですか。

次の中から五つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

- 1 高速交通網の整備
- 2 高度情報化
- 3 技術革新と産業構造の変化
- 4 少子・高齢化
- 5 国際化
- 6 自然・地球環境の保全
- 7 男女共同参画
- 8 心の豊かさやゆとりの重視
- 9 余暇活動の重視
- 10 地方の主体性・自立性重視（地方分権、道州制への対応）
- 11 地域間（県外）の交流や連携
- 12 行財政改革
- 13 地域活動（コミュニティ活動）
- 14 ボランティア活動、コミュニティビジネス*
- 15 節水型都市づくり
- 16 生涯学習
- 17 地域文化
- 18 環境（アメニティ*）づくり
- 19 市民との協働
- 20 公民の役割分担
- 21 コンパクトで持続可能な都市づくり（コンパクトシティ*）
- 22 安全・安心なまちづくり（防災・防犯・交通安全）
- 23 その他（ ）

* コミュニティビジネス：市民が主体となって、福祉をはじめとする地域の
題に取り組み、課題を解決してゆく事業のこと

* アメニティ：快適性を意味し、人々の心に「快適さ」、「心地よさ」、
「楽しさ」などを感じさせること

* コンパクトシティ：蓄積した都市資源を生かし、環境負荷が小さく人口減少
時代に見合った持続可能な最適空間としてのコンパクト
なまちづくりの考え方

(1) 単純集計結果

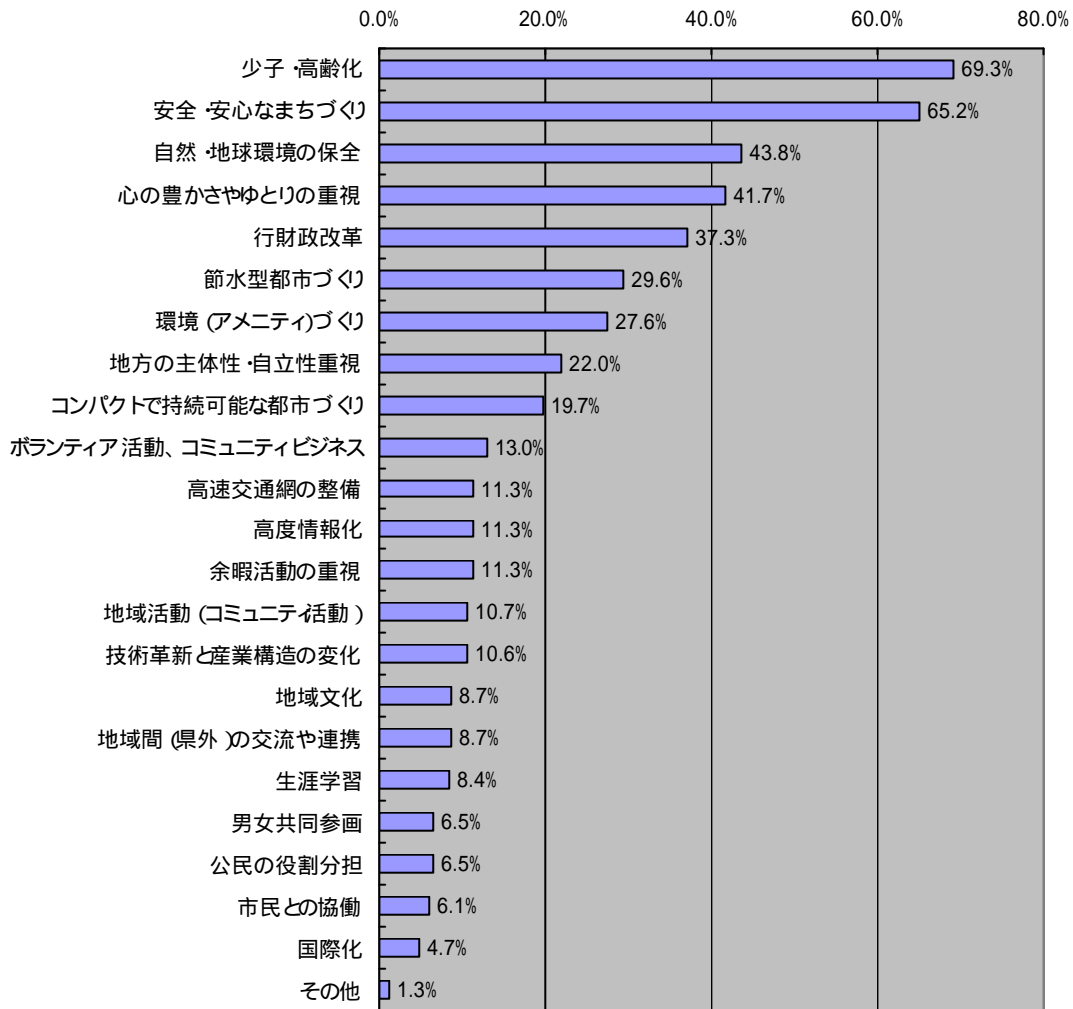
「少子・高齢化」対応と「安全・安心なまちづくり」への対応が重視される

「少子・高齢化」(69.3%)、「安全・安心なまちづくり」(65.2%)が60%を超えた圧倒的に高い回答率となっています。以下、「自然・地球環境の保全」(43.8%)、「心の豊かさやゆとりの重視」(41.7%)となって「行財政改革」(37.3%)、「節水型都市づくり」(29.6%)、「環境(アメニティ)づくり」(27.6%)、「地方の主体性・自立性重視」(22.0%)の順で続いています。このほか、「コンパクトで持続可能な都市づくり」、「ボランティア活動、コミュニティビジネス」までが上位10位に入っています。

昨今の私たちを取り巻く情勢を反映してか、「少子・高齢化」、「安全・安心なまちづくり」への対応に非常に関心が示されているのが大きな特徴となっています。この他、「環境」や「行財政改革」、地域独自の課題である「節水型都市づくり」へも高い関心が示された結果となっています。

都市づくりにおいて重視すべき時代の潮流の変化 (M.A.)

n=2450



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性別	<p>性別による回答結果では、全体結果と5ポイント以上の差がある項目はほとんどなく、差はあまり大きくありません。</p> <p>全体結果を3ポイント以上上回っている項目に着目してみると、男性では、「行財政改革」、「地方の主体性・自立性重視」への志向が女性を上回っており、女性では、「自然・地球環境の保全」、「環境(アメニティ)づくり」への志向が男性を上回っています。</p>
年齢階層別	<p>「安全・安心なまちづくり」、「心の豊かさやゆとりの重視」、「節水型都市づくり」、「ボランティア活動、コミュニティビジネス」を除くと、年齢階層別で、志向の差が認められます。</p> <p>全体結果を3ポイント以上上回っている関心、志向の高い項目を各年代別にみると、10歳代、20歳代では「環境(アメニティ)づくり」、30歳代では「少子・高齢化」、「自然・地球環境の保全」、40歳代では「コンパクトで持続可能な都市づくり」、50歳代では「自然・地球環境の保全」、「地方の主体性・自立性重視」、60歳代では「少子・高齢化」、「行財政改革」、70歳代以上では「心の豊かさやゆとりの重視」となっています。</p>
家族構成別	<p>全体結果を5ポイント以上上回っている項目は、夫婦家族の「行財政改革」だけで、夫婦家族を除き、家族構成別による回答結果の差は大きいものではありません。</p> <p>なお、全体結果を5ポイント以上下回り、相対的に関心・志向の低い項目を家族構成別にみると、単身家庭の「少子・高齢化」、「環境(アメニティ)づくり」、三世帯家族の「行財政改革」となっています。</p>
居住年数別	<p>「自然・地球環境の保全」、「行財政改革」、「節水型都市づくり」、「環境(アメニティ)づくり」、「地方の主体性・自立性重視」では居住年数別での差は小さなものですが、他の項目については、居住年数別での一定の差がみられます。</p> <p>全体結果を3ポイント以上上回り、関心・志向の強い項目をみると、3年以上10年未満では「少子・高齢化」、「安全・安心なまちづくり」、「コンパクトで持続可能な都市づくり」、10年以上20年未満では「ボランティア活動、コミュニティビジネス」となっています。</p>
職業別	<p>全体結果を5ポイント以上上回って関心・志向の強い項目をみると、公務員では「地方の主体性・自立性重視」、商工サービス自営業では「心の豊かさやゆとりの重視」、農林水産業では「少子・高齢化」、「心の豊かさやゆとりの重視」、「行財政改革」、自由業では「自然・地球環境の保全」、「行財政改革」、「地方の主体性・自立性重視」、パート・アルバイト・フリーターでは「環境(アメニティ)づくり」、主婦では「安全・安心なまちづくり」、「自然・地球環境の保全」となっています。</p>
居住地区別	<p>居住地区別の回答結果と全体結果の差は、「節水型都市づくり」を除き、比較的小さいものです。</p> <p>このなかで、全体結果を3ポイント以上上回り、相対的に関心・志向の強い項目をみると、牟礼地区では「安全・安心なまちづくり」、「自然・地球環境の保全」、「行財政改革」、庵治地区では「少子・高齢化」、「節水型都市づくり」、香川地区では「節水型都市づくり」、「環境(アメニティ)づくり」、香南地区では「少子・高齢化」、「心の豊かさやゆとりの重視」となっています。</p>

1・2・7 財政健全化への対応について

【質問】 高松市では、厳しい財政状況の中、将来にわたり持続可能な健全財政を目指していく必要があると考えています。あなたは、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

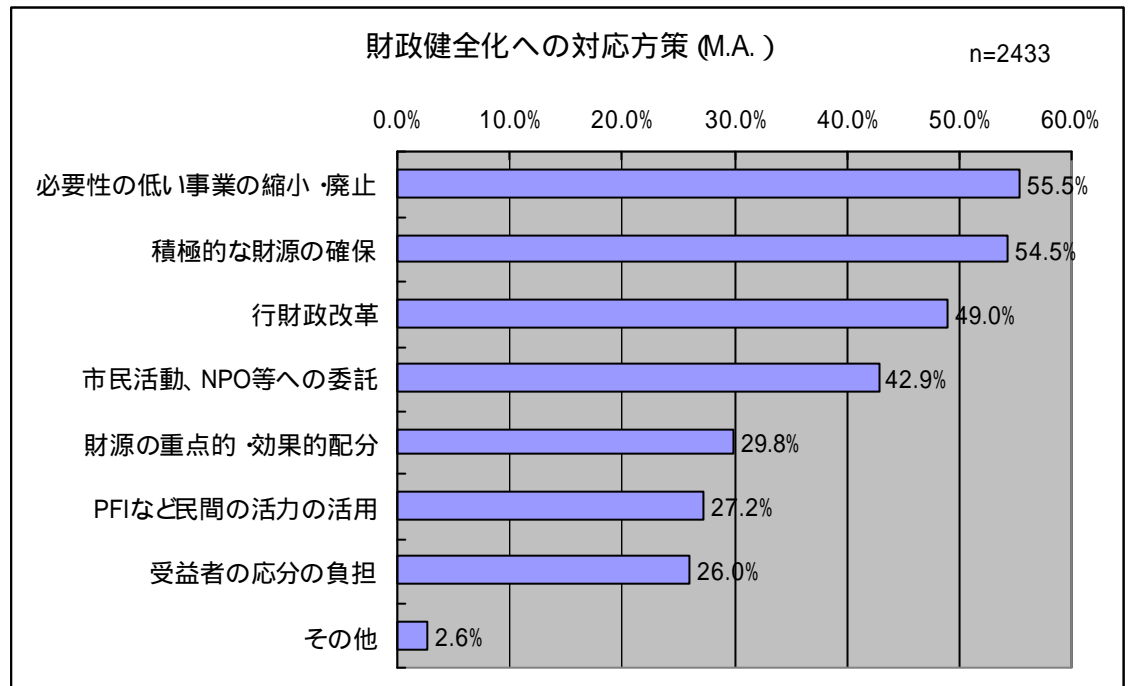
- 1 市税の滞納整理の徹底など、財源を積極的に確保する
- 2 限られた財源と人員を有効活用するため、徹底して行財政改革に努める
- 3 特定の人が利便を受けるサービスに対して、応分の負担をしてもらう
- 4 実施する事業に優先順位を付け、財源の範囲内で厳しい選択を行い、財源の重点的・効果的配分に努める
- 5 市民の要望や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要性が低くなった事業を縮小・廃止していく
- 6 行政が責任を持つべき分野をはっきりさせ、行政が行わなくてもよい業務は、市民活動、NPO（民間非営利組織）、民間企業などに積極的に委ねていく
- 7 行政が行うべき事務事業についても、民間委託やPFI* など民間の活力を積極的に活用していく
- 8 その他（具体的に ）

* PFI：Private Finance Initiative プライベート・ファイナンス・イニシアティブの略称で、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法のこと

(1) 単純集計結果

「必要性の低い事業の縮小・廃止」を筆頭に、「財源の確保」、「行財政改革」の順

財政健全化への対応施策としては、「必要性の低い事業の縮小・廃止」が55.5%と最も高く、以下、「財源の積極的な確保」(54.5%)、「行財政改革」(49.0%)、「市民活動、NPO等への委託」(42.9%)と続き、「財源の重点的・効果的配分」、「PFIなど民間の活力の活用」、「受益者の応分の負担」の支持は20%代と相対的に低くなっています。



(2) クロス集計

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	性別による回答結果は、男性・女性とも全体結果と同順位となっており、回答率でも大きな差はみられません。
年齢階層別	70歳代以上で、「積極的な財源の確保」の回答率が非常に高く、「市民活動、NPO等への委託」の回答率が低いこと、また、10歳代で「行財政改革」「財源の重点的・効果的配分」の回答率が非常に高いことが特徴となっていますが、それ以外については年齢階層別の差は小さいと言えます。
職業別	「必要性の低い事業の縮小・廃止」では、差が相対的に小さいものの、他の項目では差がでてきます。 全体結果を5ポイント以上上回って関心・志向が強い項目をみると、公務員では「積極的な財源の確保」、「財源の重点的・効果的配分」、「受益者の応分の負担」、農林水産業では「積極的な財源の確保」、「行財政改革」、自由業では「市民活動、NPO等への委託」、「PFIなど民間の活力の活用」、学生では「行財政改革」、無職では「積極的な財源の確保」となっています。
居住地区別	居住地区別にみると、全体的に全体結果との差は小さなものとなっています。 このなかで、全体結果を5ポイント以上上回っている項目は、塩江地区の「行財政改革」、香南地区の「積極的な財源の確保」が他地区に比べて関心が高くなっています。

1・2・8 環境問題への対応について

【質問】 近年、環境問題の重要性についての理解が深まっています。あなたは、今後どのようなことが環境問題に取り組む上で重要だとお考えですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

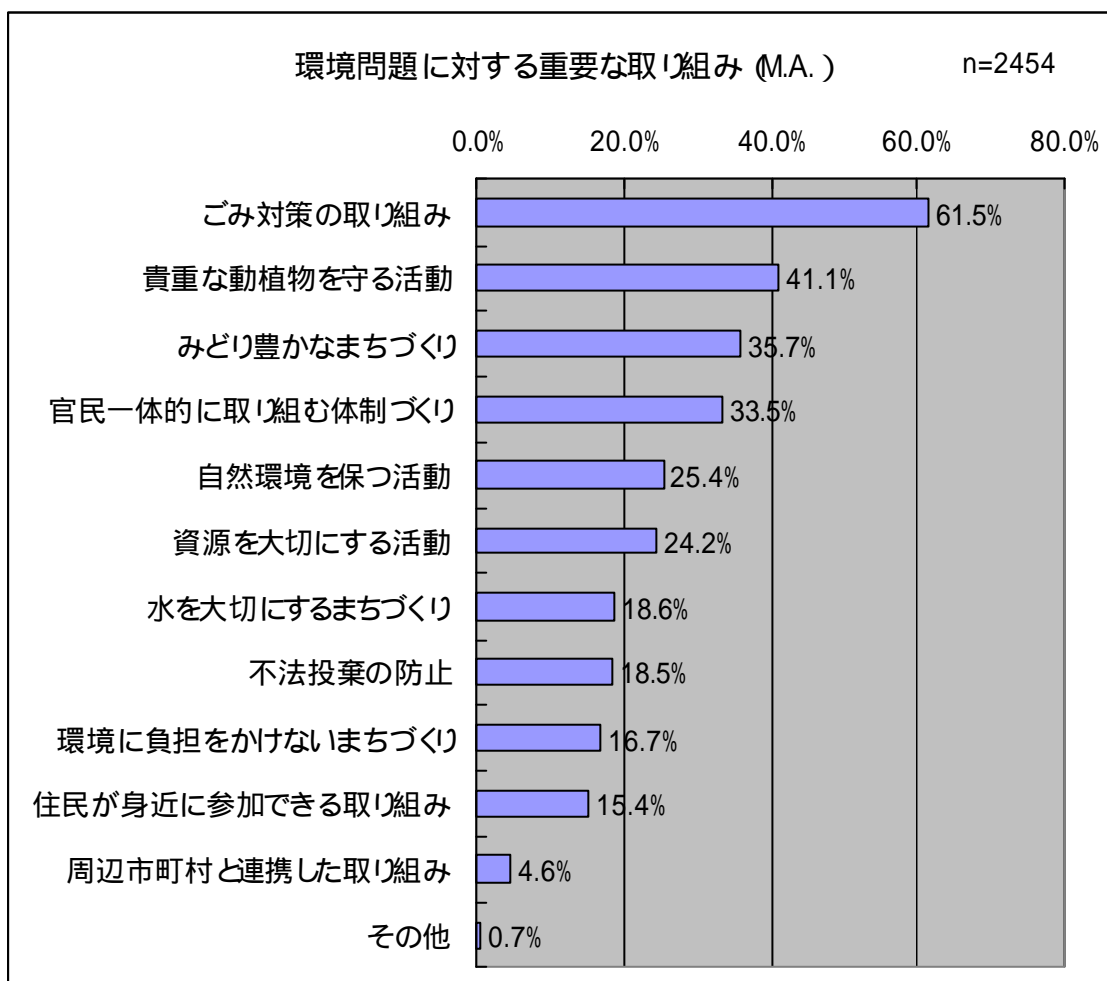
- 1 リサイクルの強化や、家庭ゴミを減らすなど、ごみ対策に取り組む
- 2 現在及び将来の市民が自然の恵みを楽しむことができるよう、自然環境を保つ活動に取り組む
- 3 省エネやアイドリングストップ*など、資源を大切にしている活動に取り組む
- 4 必要以上の開発を避け、貴重な動植物を守る活動に取り組む
- 5 森林や緑地を育て、みどり豊かなまちづくりに取り組む
- 6 清掃、植栽など住民が身近に参加できる取り組みを進める
- 7 環境に対する意識を高め、市民・企業・行政が一体的に取り組む体制をつくる
- 8 下水道の整備や処理水の再利用などにより、環境に負担をかけないまちづくりに取り組む
- 9 節水や雨水利用を進め、水を大切にしているまちづくりに取り組む
- 10 産業廃棄物の不法投棄の防止を図る
- 11 周辺市町と連携した取り組みを進める
- 12 その他（具体的に _____ ）

*アイドリングストップ：信号待ち等の時間に車のエンジンを止めること

(1) 単純集計結果

「ごみ対策の取り組み」が61.5%で圧倒的な回答率

環境問題に対する重要な取り組みとしては、61.5%を占める「ごみ対策の取り組み」が圧倒的に高く、次いで「貴重な動植物を守る活動」(41.1%)、「みどり豊かなまちづくり」(35.7%)、「官民一体的に取り組む体制づくり」(33.5%)と続いています。このほか、「自然環境を保つ活動」、「資源を大切にす活動」も20%台の回答率を得ています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	男性・女性での回答率の差は「ごみ対策の取り組み」の7.9ポイントが最大であり、その他は性別での差はほとんどありません。
年齢階層別	10歳代で「不法投棄の防止」、30歳代で「水を大切にすまちづくり」が重要視されている結果が示されていること以外では年齢階層別の差は小さなものとなっています。
居住地区別	塩江地区の「みどり豊かなまちづくり」、「官民一体的に取り組む体制づくり」、「自然環境を保つ活動」が他地区に比較して高くなっているほかは、居住地区による回答率の差はあまり大きくはありません。

1・2・9 少子・高齢社会への対応について

【質問】 将来、ますます少子・高齢社会が進行することが予想されています。今後、高松市が、子どもが健やかに生まれ育ち、高齢者が安心して生き生きと暮らせるまちづくりを進める上で、あなたは、どのようなことが重要だとお考えですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

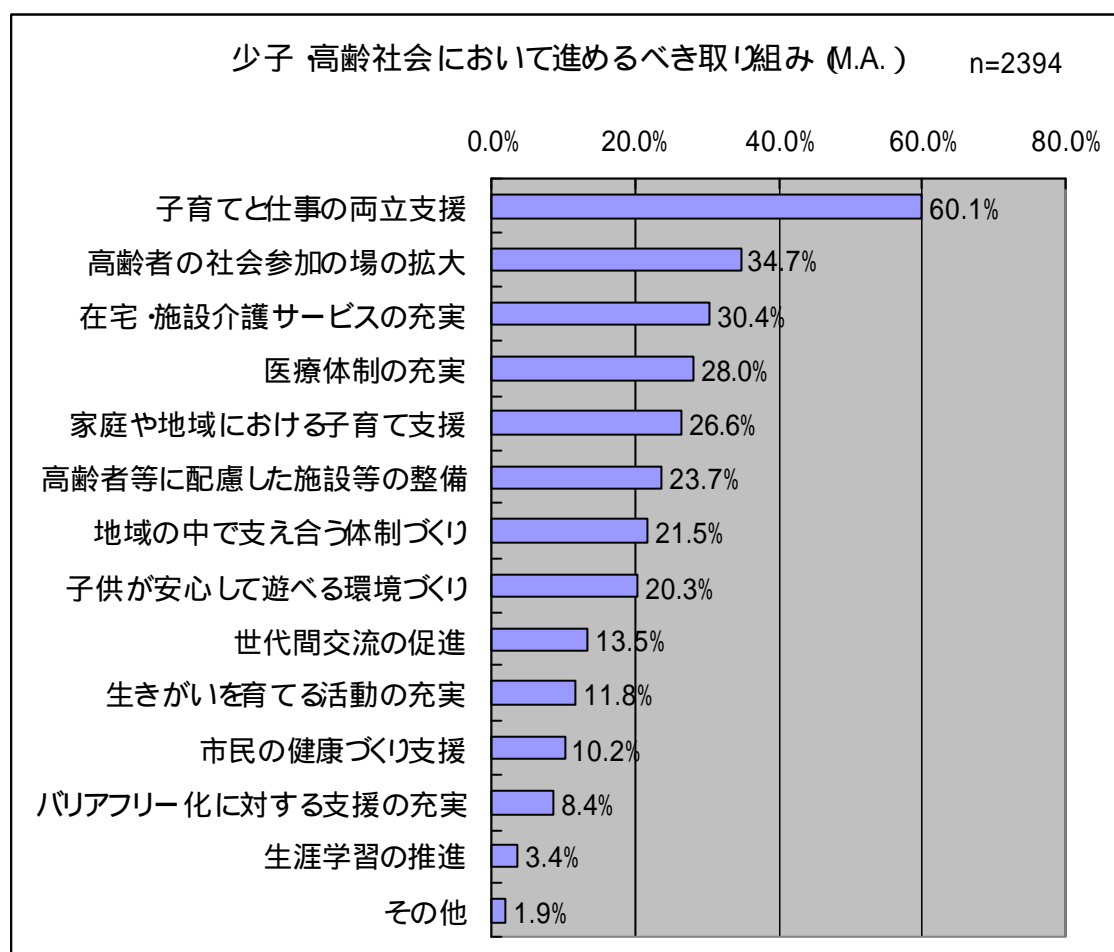
- 1 家庭や地域における子育てを支援する
- 2 遊び場の整備など、子どもが安心して遊び、育つ環境づくりに取り組む
- 3 安心して子育てができる雇用環境を作るとともに、保育サービスを充実し、子育てと仕事の両立を支援する
- 4 介護保険制度による在宅サービスや施設介護サービスを充実させる
- 5 住宅のバリアフリー*化などに対する支援を充実させる
- 6 高齢者や障害者の利用に配慮した公共施設や商店街、交通機関、道路を整備する
- 7 医療体制の充実を図る
- 8 保健所・保健センターを拠点に、市民の健康づくりを支援する
- 9 子どもから高齢者までの世代間交流を盛んにする
- 10 趣味・レクリエーションやボランティアなど、生きがいを育てる活動を充実させる
- 11 高齢者の就業の場や、社会参加の場を拡大していく
- 12 地域の人々のつながりを強化し、地域の中で支え合う体制をつくる
- 13 生涯学習を推進する
- 14 その他（具体的に ）

*バリアフリー：高齢者や障害者の行動の妨げとなる障壁を除き、自由に、また安全で快適に行動できる生活環境を築くこと
（例：手摺りやスロープの設置など）

(1) 単純集計結果

「子育てと仕事の両立支援」が60.1%で圧倒的な回答率

少子・高齢社会において進めるべき取り組みとしては、「子育てと仕事の両立支援」が60.1%と圧倒的に高く、以下、「高齢者の社会参加の場の拡大」(34.7%)、「在宅・施設介護サービスの充実」(30.4%)、「医療体制の充実」(28.0%)、「家庭や地域における子育て支援」(26.6%)、「高齢者等に配慮した施設等の整備」(23.7%)、「地域の中で支え合う体制づくり」(21.5%)、「子供が安心して遊べる環境づくり」(20.3%)が上位を占めています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性別	回答結果において、性別による大きな差異はありません。
年齢階層別	<p>年齢階層を問わず、最も重要と考えられているのは、「子育てと仕事の両立支援」となっています。</p> <p>第2位は、10歳代から30歳代において「家庭や地域における子育て支援」、40歳代から60歳代までにおいて「高齢者の社会参加の場の拡大」、70歳代以上において「在宅・施設介護サービスの充実」です。</p> <p>第3位は、10歳代および20歳代において「高齢者の社会参加の場の拡大」、30歳代が「子供が安心して遊べる環境づくり」、40歳代から60歳代までが「在宅・施設介護サービスの充実」、70歳代以上が「高齢者等に配慮した施設等の整備」です。</p> <p>第4位は、10歳代から30歳代までおよび50歳代が「医療体制の充実」、40歳代が「家庭や地域における子育て支援」、60歳代および70歳代以上が「地域の中で支えあう体制づくり」です。</p> <p>子育てをそろそろ終えようかという40歳代を分岐点として、30歳代以下では子育て支援、50歳代および60歳代では高齢者支援、70歳代以上では自らと同年代のための現実的な高齢者に関する取組を重要視する結果となっています。</p>
居住地区別	塩江地区で「子育てと仕事の両立支援」、「家庭や地域における子育て支援」、牟礼地区と庵治地区で「家庭や地域における子育て支援」の回答率が全体結果を5ポイント以上上回っている以外、居住地区別に大きな差はありません。

1・2・10 都市と産業の活力について

【質問】 今後、高松市が発展していくために、あなたは、どのような方向で取り組みを進めることが必要だとお考えですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

- 1 市街地の再開発等により、中心商店街のにぎわいづくりを推進する
- 2 サポート高松の多様な機能を活用した業務や交流を育てる
- 3 企業等の誘致を進める
- 4 福祉、健康、環境などの新しい産業を育てる
- 5 流通機能を強化する
- 6 大学や研究所と連携して起業化（新しい事業をおこすこと）を促進する
- 7 地域に密着した身近なサービスの事業化を促進する
- 8 商業機能や文化資源等も活かした魅力ある観光・コンベンション* の振興を図る
- 9 地域産業や伝統文化などの地域資源を生かした観光・交流を促進する
- 10 産業や都市の活力を支える人材の育成を進める
- 11 にぎわいを支える交通、都市基盤を充実させる
- 12 人々が集う魅力のある景観、環境等の充実を図る
- 13 その他（具体的に _____ ）

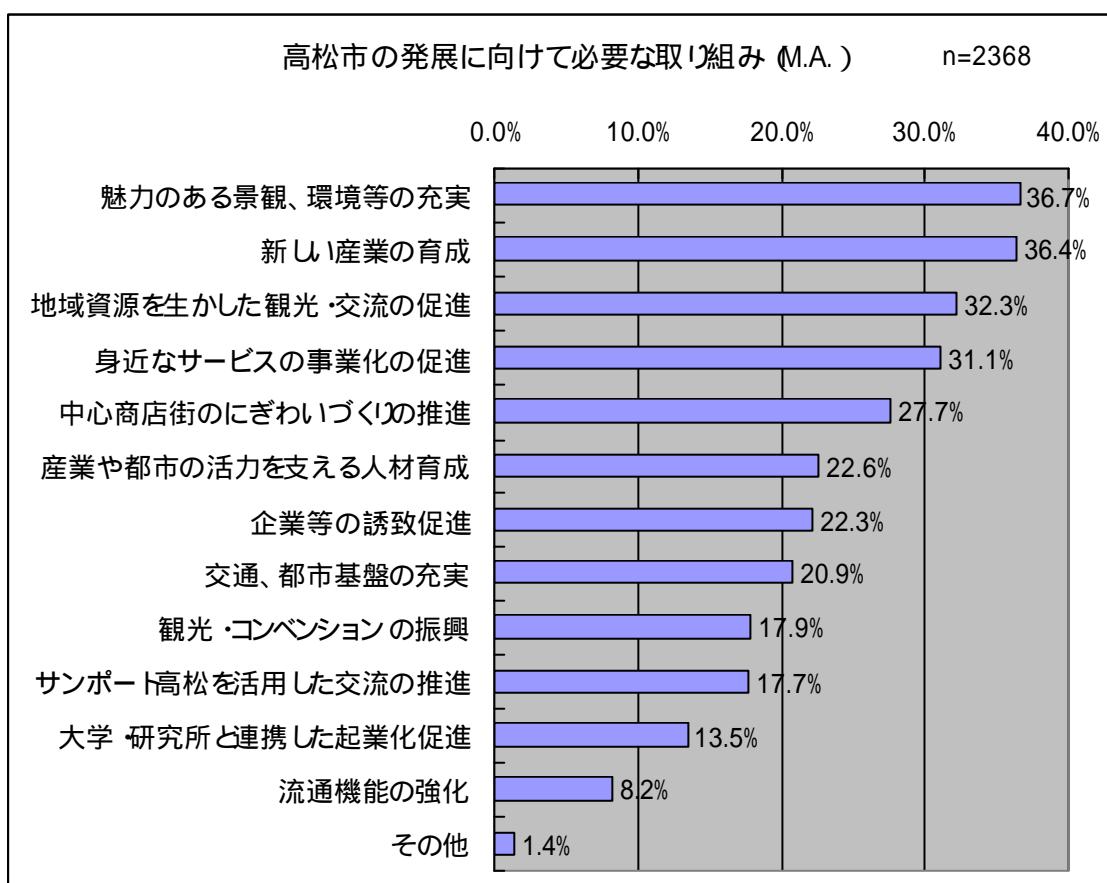
* コンベンション：学術、経済、文化をはじめとする各種団体や企業が国内外から参加者を募り開催する会議や大会など

(1) 単純集計結果

「魅力のある景観、環境等の充実」、「新しい産業の育成」、「地域資源を生かした観光・交流の促進」、「身近なサービスの事業化の促進」が特に重視

高松市の発展に向けて必要な取組としては、「魅力のある景観、環境等の充実」の36.7%を筆頭に、「新しい産業の育成」(36.4%)、「地域資源を生かした観光・交流の促進」(32.3%)、「身近なサービスの事業化の促進」(31.1%)が特に重視されています。

これに次ぐのは、「中心商店街のにぎわいづくりの促進」(27.7%)で、「産業や都市の活力を支える人材育成」(22.6%)、「企業等の誘致促進」(22.3%)、「交通、都市基盤の充実」(20.9%)が続いています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	<p>男性の場合、上位3位までの順位は全体結果と変わりませんが、上位3位の回答率が全体結果より低い点で特徴がみられます。</p> <p>一方、女性の場合、上位3位については、順位が全体結果とは異なりますが、いずれも全体結果より回答率が高いことは共通しています。</p>
年齢階層別	<p>サンプル数の少ない10歳代で「中心商店街のにぎわいづくりの推進」、および「大学・研究所と連携した起業化促進」が突出して高いほか、各項目では次のような特徴があります。</p> <p>「新しい産業の育成」は70歳代以上、「交通、都市基盤の充実」は20歳代の回答率が高くなっています。</p> <p>「観光・コンベンションの振興」は50歳代、また「サポート高松を活用した交流の推進」は20、60歳代で相対的に回答率が高くなっています。</p> <p>なお、その外の項目については、年齢階層別の差はあまりみられません。</p>
職業別	<p>各項目とも職業別の差が大きく表れています。</p> <p>全体結果との差に着目して、全体結果を5ポイント以上上回っている項目をみると、商工サービス自営業では「地域資源を生かした観光・交流の促進」、農林水産業では「新しい産業の育成」、「企業誘致の促進」、自由業では「魅力のある景観、環境等の充実」、「地域資源を生かした観光・交流の促進」、学生では「身近なサービスの事業化の促進」、「中心商店街のにぎわいづくりの推進」となっています。</p>
居住地区別	<p>「産業や都市の活力を支える人材育成」以外の項目では、居住地の特性を反映して、居住地区別回答に差がみられます。</p> <p>全体結果を5ポイント以上上回る項目をみると、塩江地区では「魅力のある景観、環境等の充実」、「身近なサービスの事業化の促進」、「企業等の誘致促進」、牟礼地区では「中心商店街のにぎわいづくりの推進」、庵治地区では「新しい産業の育成」、「地域資源を生かした観光・交流の促進」、香南地区では「新しい産業の育成」となっています。</p>

1・2・11 まちづくりへの参加について

【質問】 これからのまちづくりは、市民と地域社会と行政がそれぞれの役割を自覚し、市民と行政が協働して地域のまちづくりを進めていくことが求められています。あなたは、今後どのような方法で市民が主体となったまちづくりを進めて行けば良いとお考えですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

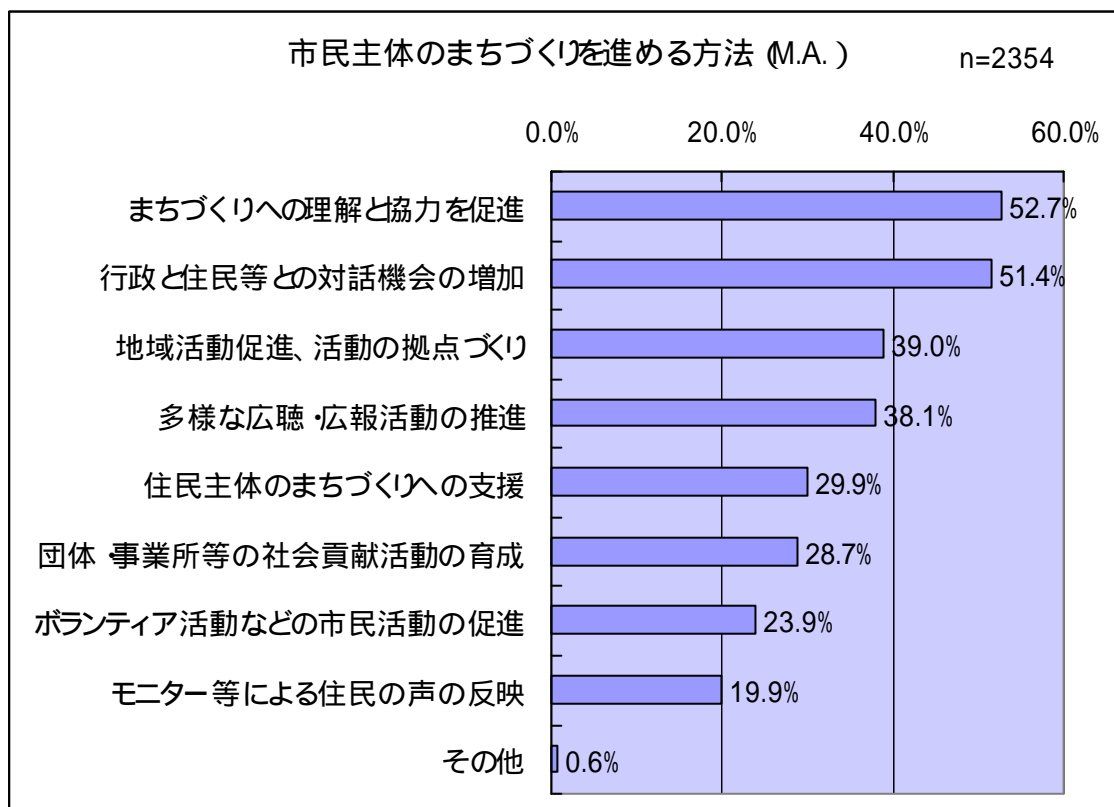
- 1 自治会をはじめとする地域活動（コミュニティ活動）を促進するとともに、活動の拠点作りを進める
- 2 行政と住民等との対話の機会をふやす
- 3 各種団体や民間事業所による広域的な社会貢献活動を育成する
- 4 ボランティア活動をはじめとする市民活動を促進する
- 5 行政の情報公開を進め、まちづくりへの住民の理解と協力を促す
- 6 インターネットやケーブルテレビを活用し、住民の提案を広く募集するなど、多様な広聴・広報活動を推進する
- 7 各種委員やモニター等の住民代表を広く募集し、その声を反映する
- 8 住民主体のまちづくりの取り組みに対し支援する
- 9 その他（具体的に ）

(1) 単純集計結果

「まちづくりへの理解と協力を促進」が52.7%と最も多く、次いで「行政と住民等との対話機会の増加」

市民全体のまちづくりを進める方法については、「まちづくりへの理解と協力を促進」が52.7%と最も回答率が高く、51.4%を占める「行政と住民等との対話機会の増加」がこれに続いています。

第3位は、「地域活動促進、活動の拠点づくり」(39.0%)、「多様な広聴・広報活動の推進」(38.1%)、以下、「住民主体のまちづくりへの支援」(29.9%)、と続いており、「モニター等による住民の声の反映」(19.9%)は(「その他」を除いた)最下位にとどまっています。



(2) クロス集計結果

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性 別	性別による大きな差はみられませんが、「行政と住民等との対話機会の増加」、「地域活動促進、活動の拠点づくり」、「多様な広聴・広報活動の推進」は男性の回答率が女性の回答率を上回っている一方、「まちづくりへの理解と協力を促進」、「住民主体のまちづくりへの支援」、「団体・事業所等の社会貢献活動の育成」、「ボランティア活動などの市民活動の促進」、「モニター等による住民の声の反映」は逆に女性の回答率の方が高くなっています。
年齢階層別	「まちづくりへの理解と協力を促進」、「住民主体のまちづくりへの支援」、「団体・事業所等の社会貢献活動の育成」以外の項目は年齢階層別に大きな差がみられます。 全体結果を5ポイント以上上回っている項目をみると、10歳代～40歳代では「多様な広聴・広報活動の推進」、30歳代では「モニター等による住民の声の反映」、60歳代～70歳代以上では「地域活動促進、活動の拠点づくり」、70歳代以上では「行政と住民等との対話の機会の増加」となっています。
居住年数別	居住年数別での差は比較的小さいと言えます。 3年未満の居住年数の短い住民では、「住民主体のまちづくりへの支援」を求める声が高くなっています。一方、比較的居住年数の長い10年以上20年未満では、「多様な広聴・広報活動の推進」の回答率が突出して高くなっています。
居住地区別	庵治地区で「行政と住民等との対話機会の増加」、「住民主体のまちづくりへの支援」が高くなっている他は、居住地区別による差はそれほど大きくありません。

1・2・12 地方分権時代の高松市の役割について

【質問】 地方分権がいよいよ実行段階を迎える中、高松市が活力と潤いのある広域的な拠点都市づくりを進めるために、あなたは、将来、高松市がどのような分野で中心的な役割を果たすことが望ましいとお考えですか。

次の中から三つまで選んで、その番号に 印をつけてください。

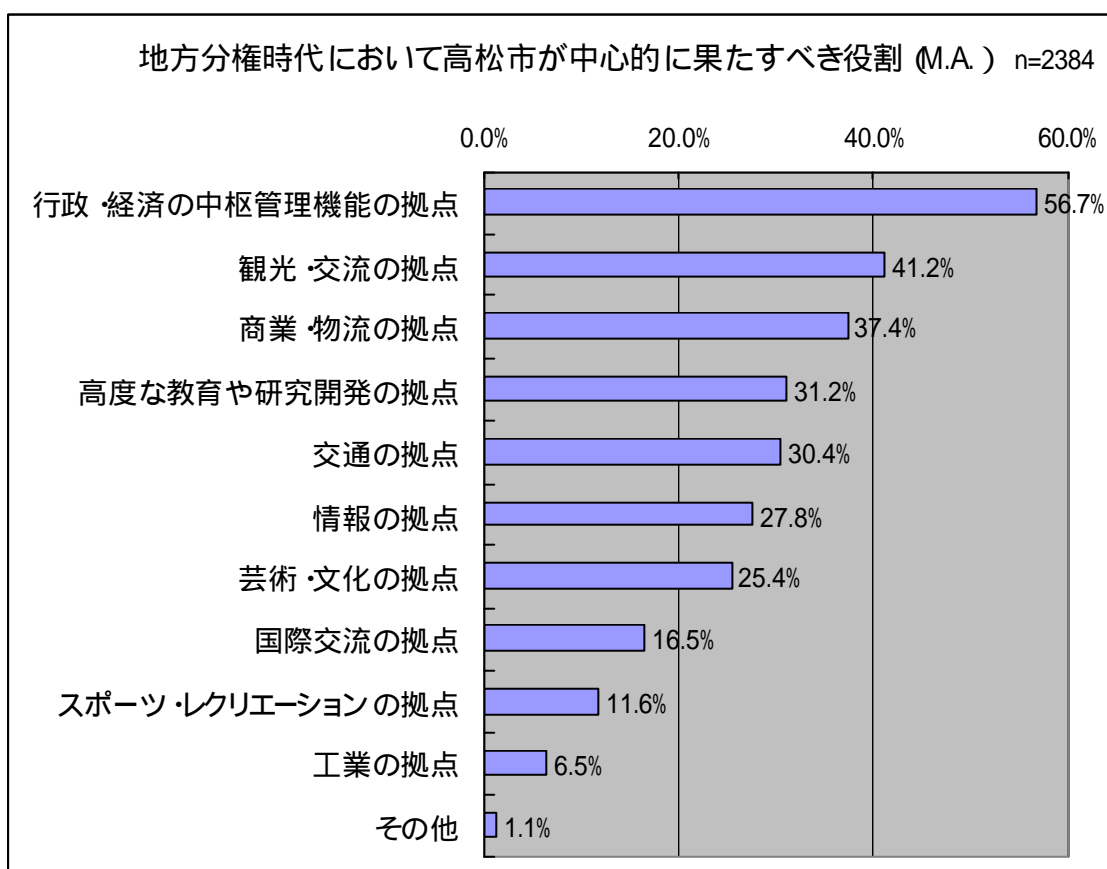
- 1 行政・経済の中核管理機能の拠点
- 2 交通の拠点
- 3 情報の拠点
- 4 工業の拠点
- 5 商業・物流の拠点
- 6 観光・交流の拠点
- 7 スポーツ・レクリエーションの拠点
- 8 芸術・文化の拠点
- 9 高度な教育や研究開発の拠点
- 10 国際交流の拠点
- 11 その他（具体的に

)

(1) 単純集計結果

「行政・経済の中枢管理機能の拠点」が56.7%で最も高く、「観光・交流の拠点」が第2位

地方分権時代において高松市が中心的に果たすべき役割については、過半数を超える56.7%が「行政・経済の中枢管理機能の拠点」を選択しており、続いて「観光・交流の拠点」(41.2%)、以下、「商業・物流の拠点」(37.4%)、「高度な教育や研究開発の拠点」(31.2%)、「交通の拠点」(30.4%)、「情報の拠点」(27.8%)、「芸術・文化の拠点」(25.4%)の順となっています。このなかで、「国際交流の拠点」、「スポーツ・レクリエーションの拠点」の回答率は10%台にとどまっており、「工業の拠点」は最も低い回答率となっています。



(2) クロス集計

クロス集計結果の特徴は、以下のとおりです。

区 分	内 容
性別	<p>男性・女性とも「行政・経済の中枢管理機能の拠点」が第1位を占めますが、女性の回答率は男性に比べ10ポイント以上低く、また、「観光・交流の拠点」が第2位を占める点は共通するものの、これは女性の回答率が6ポイント高くなっているなど、性別による特徴もみられます。</p> <p>ほか、女性の回答率が男性を8ポイントも上回っている「芸術・文化の拠点」なども差の大きい項目です。</p> <p>上記以外の項目については、性別の回答結果に大きな差はありません。</p>
年齢階層別	<p>「観光・交流の拠点」、「商業・物流の拠点」、「国際交流の拠点」、「工業の拠点」を除く各項目において、年齢階層別による回答率に差がみられます。</p> <p>年齢階層別に全体結果を5ポイント以上上回っている項目をみると、10歳代～20歳代では「交通の拠点」、20歳代～30歳代では「スポーツ・レクリエーションの拠点」、30歳代では「観光・交流の拠点」、40歳代では「高度な教育や研究開発の拠点」、50歳代では「情報の拠点」、「芸術・文化の拠点」、60歳代～70歳代以上では「行政・経済の中枢管理機能の拠点」となっています。</p>
居住地区別	<p>「行政・経済の中枢管理機能の拠点」では香南地区、「商業・物流の拠点」では庵治地区、「交通の拠点」、「工業の拠点」では塩江地区の回答率が全体結果を5ポイント以上上回っており、相対的に強い志向が示されていますが、その他の項目については地区別の差は小さなものとなっています。</p>

1・2・13 地域区分について

【質問】 最近、政令指定都市や一部の中核市では、市域全体を対象とした計画に加え、市内を大きくブロック分けをして、それぞれの地域ごとの整備方針やまちづくりの考え方をまとめる例がみられます。あなたは、このことについてどのようにお考えですか。

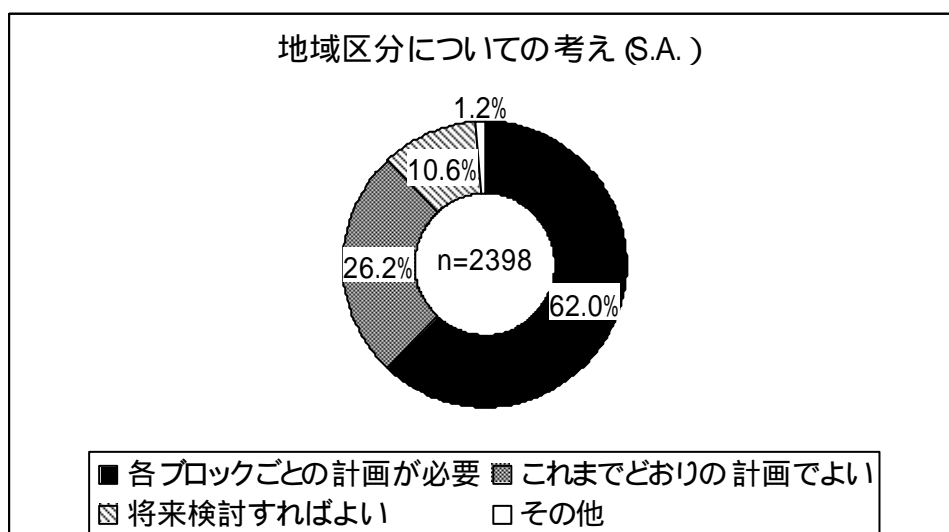
次の中から一つ選んで、その番号に 印をつけてください。

- 1 大ブロックによる地域区分は必要であり、各ブロックごとの整備方針や計画をつくるべきである
- 2 これまでどおり市域全体を対象とした計画を策定すればよい
- 3 将来検討すればよい
- 4 その他（具体的に ）

(1) 単純集計結果

62%が「各ブロックごとの計画が必要」と回答

今後の計画策定時における地域区分に対する回答結果は、「各ブロックごとの計画が必要」が62.0%を占め、「これまでどおりの計画でよい」の26.2%と比較すると、全体的にみれば、新たに地域ブロックごとの計画が必要とする意見が多数を占めています。



(2) クロス集計結果(居住地区別)

各地区とも「各ブロックごとの計画が必要」が高い回答率

各地区とも「各ブロックごとの計画が必要」が「これまでどおりの計画でよい」を大きく上回っていますが、回答率はそれほど差はありません。

